

右飲食物試験ノ際余ハ卷烟草ヲ喫シ半ハニシテ本人ノ傍ニ置キシニ無案内ニテ之レヲ喫煙シ監守ニ制セラレテ笑ヲ含ミテ止ム之レ等モ亦鑑定上價值アルノ事ナリ

以上ノ事實ニ由リ被告△△△△△ナル者ハ第一應答不明

第二思慮及記憶力減損第三事理ヲ解スルヲ能ハス

第四喜努愛樂ノ情ヲ辨セサルヲ並ニ既往症及現在症ニ據リ推考ヲ下スルハ本人ハ元來無教育者ニシテ性質敏捷ナラス寧ロ遲鈍ナルニ近ク高齡ニ及ヒ精神機能ノ著シク減退シタル者ニシテ所謂老耄狂ト名クヘキ者ナリ
右之通り及鑑定候也

此鑑定ハ明治廿九年八月七日午前八時ヨリ初メ同九月廿一日午前十一時ニ終リ、被告△△△△△ハ遂ニ無罪ノ宣告ヲ受ケルヲ得タリト云

明治廿〇年九月廿三日

第四高等學校助教授囑托金澤病院醫員

森島彦夫 印

◎化粧石鹼定量試驗成績

林常雄
松ヶ枝眞九郎

今日ニ於ケル日本ノ工業ハ未タ以テ其盛域ニ達セズト雖モ之レヲ昔日ニ比スレバ其進歩ノ大ナル敢テ余等カ贅言ヲ費スノ要ナキ也見ヨ麥酒也、葡萄酒也、燐寸也、石鹼也、硫酸也、其他種々ノ内國工業品ニシテ往々外國品ヲ凌駕スルモノアルニ非スヤ然レモ一利一害ハ數ノ免レザル處ニシテ斯ク製造業ノ日ヲ追フテ隆盛ニ赴キ良品ノ製出アルト共ニ亦タ粗惡品若クハ贗造品ノ多キモ實ニ驚ク可キモノアリト聞ケリ故ニ余等ノ如キ分析ニ從事セントスルモノハ職トシテ是等ノ製品ニ付キ其善惡精粗ヲ江湖ニ報道スルハ將來トモニ最モ勉ム可キノヲナリト信シ依テ我師櫻井教授ノ許可ヲ得テ客年末ヨリ衛生化學實習トシテ化粧石鹼ノ定量分析ニ從事セリ然ルニ余等身未タ學生ナルヲ以テ一意其事ニノミ任スル能ハス且檢了ノ時日ニモ豫メ制限アルヲ以テ余等カ心ニ企望セシ十分ノ一ヲモ其品種ヲ蒐集スル能ハズ是レ少數檢品ノ爲メニ貴重ナル紙面ヲ汚シタル所以ニシテ會員諸君ニ謝

●原著及實驗

十五

セザルヲ得ザル所ナリ

余等カ試驗ノ目的ハ一般ニ今日市上(金澤市)ニ見ル所ノ化粧石鹼ハ其品位如何ナル程度ニアルヤ且其價格ハ互ニ品質ノ善惡ニ相當スルヤ並ニ其使用上衛生ニ害ナキヤ否ヤヲ調査スルニアリ

試驗ノ方法ハ主トシテベネジクト Benedict 氏ノ脂肪及臘種ノ分析書ニ據リ傍ラ他書ヲ參考セリ左ニ其採用セシ方法ノ概略ヲ記スベシ

一、水分ノ定量

主ニレエーウエ Lowe 氏ニ從ヒ檢品ヲ薄片トナシ其八乃至十「グラム」ヲ秤取シ交互ノ融着ヲ防クカ爲メニ最初ニ攝氏ノ六十乃至七十度ニ後百度乃至百〇五度ニ於テ一定量ヲ得ルニ至ル迄乾燥セリ但シ檢體ノ或物ニ付テハ參考上「グラツヂンク」Grolting 氏ノ法ニ從ヒ大約百ノ内容ヲ有スル「ペーケル」中ニ於テ其底ニ大約一、二「センチメートル」ノ高サニ至ル迄熾灼セル砂ヲ容レ硝子棒ト共ニ秤量シ然ル後是レニ五「グラム」ノ石鹼ヲ投シ再ヒ秤量シ尙ホ之レニ二十五 cc. ノ亞爾簡保兒ヲ注キテ時々攪拌シツ、水浴上ニ一定量ヲ得ルニ至ル迄温メ其失量ヲ以テ水分トナシ前法ニ由テ得タルモノトノ中等數ヲ取レリ

二、亞爾加里含量ノ定量

(イ) 遊離亞爾加里

先ツ可檢品ノ亞爾簡保兒性溶液ニ「フェノールフタレイン」溶液ヲ加ヘ赤色ヲ呈スルヤ否ニ由テ其含否ヲ知り果シテ含有セリト認メタルモノハホツペ Hope 及モフィット Moffit 兩氏ノ方法ニ由テ試驗シ其中等數ヲ採用セリホツペ氏ノ方法ハ可檢品ノ大約三十「グラム」ヲ亞爾簡保兒中ニ溶解スルニアリ然ルキハ特リ炭酸亞爾加里ハ溶解セズシテ殘留スレハ脂肪酸亞爾加里及ヒ遊離亞爾加里ハ溶解スレテ之レヲ濾過シ其濾液ニ「フェノールフタレイン」溶液ヲ加ヘ十分定規硫酸ヲ以テ容量的ニ定量セリ」モフィット氏ノ方法ハ可檢石鹼ノ十「グラム」ヲ百五十乃至百八十 cc. ノ亞爾簡保兒中ニ溶解シ濾過シ其殘渣ヲ温ニ乗ジテ温酒精ヲ以テ洗滌シ濾液ヲ悉トク合シ此液面ニ能ク洗滌セシ炭酸ノ氣流ヲ送ルニアリ然ルキハ遊離亞爾加里ハ炭酸鹽トナリテ析出スベシ爰ニ於テ溶液ヲ

久シク靜置シ水浴上ニ温メ濾過シ殘渣ヲ温酒精ヲ以テ洗滌シタル後水中ニ溶解シテ容量のニ定量スルニアリ
(ロ) 炭酸亞爾加里

前ノ試驗ニ於テ石鹼ヲ酒精中ニ溶解セシ際ニ殘留セシモノヲ蒸餾水ヲ以テ浸出シ然シテ其溶液ヨリ容量のニ定量スルニアリ

(ハ) 總亞爾加里(遊離亞爾加里、炭酸亞爾加里及脂肪酸亞爾加里ノ加算數)

三十「グラム」ノ可撿石鹼ヲ熱湯ニ溶解シ之レニ五十ccノ定規硫酸ヲ注加シ脂肪酸ノ全ク分離スル迄加熱シ而シテ後冷却シテ凝固セシ脂肪酸ヲ濾過シ其濾液ノ全部或ハ其一部分ヲ取り定規那篤倫瀉液ヲ以テ容量のニ定量セリ但シ此際標示藥ニハ「メチユール」橙黃ヲ使用セリ

此ニ得タル亞爾加里ノ量ヨリ前ニ得タル遊離亞爾加里及炭酸ニ結合セシ亞爾加里ノ量ヲ控除スレハ脂肪酸ニ結合セシ亞爾加里ノ量ヲ得ルナリ

三、脂肪酸ノ定量

五乃至二十「グラム」ノ石鹼ヲ薄片トナスカ或ハ僅ノ水中ニ溶解シ之レニ過剩ノ稀硫酸ヲ加ヘ爰ニ析出セシ脂肪酸ガ一ノ白色ナル凝點ヲモ有セスシテ全ク透明ナル層ヲ生ズル迄加熱シ、后冷却シ凝結シテ液ノ全面ヲ覆フ脂肪酸ノ扁平ナル塊ニ硝子棒ヲ以テ其周圍ニ二個ノ孔ヲ穿テリ即チ一ハ容器ノ口部ニ近キ所他ハ之レト反對ノ位置ニ於テセリ而シテ甲ノ孔ヨリ水液ヲ流出セシメ尙ホ屢々純粹ナル水ト共ニ右塊ヲ再ヒ熔融シ前ノ操作ヲ反復シ終ニ右塊ヲ硫酸器中ニ乾燥シ秤量セリ但シ爰ニ注意スベキハ分析ノ成績中百分算トナスニハ先ツ無水物ニ改算シ而シテ後行フニアレト

百分ノ硬脂酸 ($C_{18}H_{36}O_2$) ハ九六、八三分ノ無水硬脂酸 ($C_{18}H_{34}O_2$) ヲ

百分ノ軟脂酸 ($C_{16}H_{32}O_2$) ハ九六、四八分ノ無水軟脂酸 ($C_{16}H_{30}O_2$) ヲ

百分ノ油 酸 ($C_{18}H_{32}O_2$) ハ九六、八一分ノ無水油酸 ($C_{18}H_{30}O_2$) ナ

ナ生スルガ故ニ無水物ニ改算スルノ算勞ヲ省キテ得タル脂肪酸ノ百分ニ付テ三、二分ヲ控除スレハ大ナル誤謬

四、偪利設林ノ定量

偪利設林ノ定量ニハ可撿石鹼ノ一定量ヲ亞爾箇保兒中ニ溶解シ石鹼中ニ存在セル偪利設林ヲ溶液トナシ右液ヲ濾過シ亞爾箇保兒ノ全ク揮散スル迄加熱シ其液ヨリ稀硫酸ニ由テ脂肪酸ヲ析出セシメ濾過シ其濾液ニ過剩ノ硫酸ヲ除去スルガ爲メニ炭酸拔留膜ヲ加ヘテ茲ニ生セシ硫酸拔留膜ヲ濾別シ尙ホ其濾液ヲ舍利別稠ニ至ル迄蒸發濃縮シ其殘渣ニ九五%ノ酒精三分及一分ノ依的兒ヨリ成レル混液ヲ注キテ浸出シ濾過シ其濾液ヲ蒸發シ殘渣ノ一定量ヲ得ルニ至ル迄反復攝氏百度ニ乾燥シ且秤量シ其溶ヲ記シ尋テ右殘渣ヲ灰化シ其灰分量ヲ秤知シ前ノ量ヨリ控除スベシ然ルキハ其差ハ即チ偪利設林量ナリトス

五、食鹽ノ定量

可撿石鹼ノ細片トナシタルモノ、一定量ヲ取り之レニ九十%ノ酒精八乃至十倍ヲ注キ適宜ニ水浴上ニ温メ其不溶解性ナル部分ヲ尙ホ全酒精ヲ以テ洗滌シ其殘渣ニ水ヲ加ヘテ溶解シ之レニ稀硝酸ヲ注加シテ酸性トナシ其溶液中ヨリ格魯兒ヲ定量シ其ヨリ格魯兒那篤留膜ニ改算セリ

余等ガ試驗ノ材料トナセシハ合計十三種ニシテ其產地、製造人名、名稱、形狀外觀、定價並ニ重量ハ左ノ第一表及第二表ニ示スガ如シ

第一表

番號	產地	製造人	名稱	定價	重量(グラム)
一	大坂市東區北久太郎町四丁目百貳拾番邸飯田定助	蜂印香竄石鹼	十五錢	八七、〇〇二	
二	大坂府西成郡今宮村仁壽堂石鹼製造場	海草石鹼	十二錢	八四、一五〇	
三	東京日本橋區通油町廿二番地清水友吉	美人石鹼	十二錢	八四、三九三	
四	本舖野阪石鹼製造所	「リスリン」石鹼	十錢	八三、六八二	

五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三

東都鶯春舎製
大阪府西成郡難波村番外五百三十番屋敷近藤石鹼
製造所
東京市牛込區拂方町十八番地西條重兵衛
大阪市南區西新瓦屋町健榮堂野々村
仁壽堂
不詳
全
全

佐保姫石鹼	八	錢	七二、五一九
花月石鹼	十	錢	七一、四二四
ねりしやばん	十二	錢	八二、〇三〇
日本一石鹼	十	錢	七八、六九〇
小町石鹼	十	錢	九一、四七七
肉桂玉石鹼	九	錢	八四、五九二
君か香石鹼	四	錢	六八、五六五
都玉石鹼	五	錢	六五、五九〇
參宮石鹼	四	錢	七四、五五五
偃里設林石鹼			

第二表

番號

形

狀

外

觀

一
二
三

臘白色ニシテ光澤ヲ帶ビ一種ノ香氣ヲ有シ長方形ヲナシ兩面扁平ニシテ表面ノ邊緣ニ溝ヲ有ス其中央ニ蜂圖及ヒ「香竄」ノ二字ヲ有シ兩側ニハ菊紋及ヒ圓形ノ「メタール」ヲ浮出セリ而シテ其菊紋上ニハ蜂圖ヲ有スル商標ヲ以テ被ヘリ其表面ノ中央ニハ GLYCERIN 其兩側ニハ KOUZANSAVON 及 SHINJIO 〆〆〆トヲ灣曲ニ記セリ而シテ其質ハ極硬ク之レヲ薄片トナスモ能ク其質度ヲ保ツ

灰白色ニシテ光澤ヲ帶ビ佳快ノ香氣ヲ有シ長方形ニシテ兩面凸起シテ穹窿狀ヲナシ兩面ノ邊緣ニ溝ヲ有ス其表面ニハ縱ニ「海草石鹼」ノ四字ヲ有シ其上部ニ登錄商標ノ四字ヲ記ス又裏面ニハ仁壽堂謹製ノ

五字ヲ有ス其質硬ク之レヲ薄片トナスモ能ク其質度ヲ保ツ

白色ニシテ光澤ヲ帶ビ一種ノ光輝ヲ有シ橢圓形ヲナシ兩面僅カニ凸起シ其兩面ノ邊緣ニ溝ヲ有ス而シテ兩面ノ中央ニ凹所アリ表面ノ凹所ハ縱ニ括弧形ニ裏面ハ圓形ニ此ノ圓形凹所ノ兩側ニ又小ナル圓形

●原著及實驗

ノ凹アリ而シテ表面ノ凹内ニ「美人石鹼」ノ四字ヲ横ニ記シ其上下ニ理化應用及ヒ一名艶玉子ト記セリ裏面ノ凹内ニハT Sノ字ヲ交互ニ編合シ其上下ニ東京清水開化堂製ヲ記ス而シテ其質硬ク之レヲ薄片トナスモ能ク其質度ヲ保ツ

淡紅色一種ノ芳香ト光澤ヲ有シ橢圓形ニシテ兩面凸起シ穹窿狀ヲナシ僅カニ扁平ニシテ其兩面ノ中央ニハ縱ニ凹所ヲ有シ表面ノ凹内ニハ水仙ヲ畫キ其中央ニ又圓形ヲ畫シ内ニH Nノ二字ヲ互々ニ編記ス其上下ニTRADE MARKヲ記セリ裏面ノ凹所ニハ中央ニNO. 1000ヲ又其上下ニハBEST SOAPヲ記セリ其質極硬ク之レヲ薄片トナスモ亦能ク其質度保ツ

橙黃色ニシテ光澤ヲ帶ビ一種ノ香氣ヲ有シ長方形ニシテ四隅ヲ各々僅カニ切斷セリ而シテ兩面上下ノ邊カ少シク凸起シ中央ノ部分ハ平坦ナリ而シテ兩面ノ表面ノ中央ニハ縱ニ長方形ニ二重ノ線ヲ以テ劃シ其内「佐保煙石鹼」ト記セリ其長方形ノ周圍ニ菊紋及ヒ桐花ト桐葉ヲ浮出セリ而シテ其質極メテ固ク之レヲ薄片トナスモ能ク其質度ヲ保ツ

臘白色ニシテ光澤ヲ帶ヒ一種ノ芳香ヲ有シ長方形ニシテ兩面ニ穹窿狀ヲナシ其邊緣甚タ凸起ス而シテ表面ニハ斜面ニ「花月石鹼」ノ四字ヲ記シ其下ニハ月ト櫻花ヲ記上ニハ櫻花ノミヲ浮出セリ裏面ニハ二個ノ正方形アリ一ハ凹ミ一ハ平坦ナリ其凹ヲ有スル正方形内ニハ中央ニ化粧用ト記シ其兩側ニ精及ヒ撰ヲ記セリ他ノ正方形ノ内ニハ大阪近藤製造ト記セリ其質堅硬之レヲ薄片トナスモ能ク其質度ヲ保ツ桃色ニシテ光澤ヲ帶ビ一種ノ芳香ヲ有シ長方形ニシテ兩面凸起シテ穹窿狀ヲナシ其兩面ノ邊緣ニ溝ヲ有シ表面ノ上部ニ正方形ヲ浮出シ其内部中央ニ「日本」其兩側ニねりしやばん及ヒ登録商標ヲ記セリ又其正方形ノ一方ノ縁ニ花ヲ浮出シ其花下ニハ馬乘ノ人アリテ「日本」ト書シタル旗ヲ手ニシタル畫ヲ浮出セリ裏面ニハ麤形ヲナシ其結目ヲ現ハシ其中央ニ「日本」ノ三字ヲ記シ其上部兩側ニ煉製ヲ記セリ其質堅硬而シテ之レヲ薄片トナスモ亦能ク其質度ヲ保ツ

臘白色ニシテ光澤ヲ帶ビ一種ノ芳香ヲ有シ長方形(少シク隅ヲ圓ク切斷ス)ニシテ表面ニハ溝ヲ有シ裏

面ハ否ラス而シテ表面ノ中央ニハ「一名小町さばん」ト記シ其上部ニハ横ニ製造下部ニモ横ニ發賣ノ二字ヲ記ス又「小町さばん」ト書シタル両側ニ大阪建榮堂、東京山高山堂ト記ス裏面ニハ縦ニ艶石鹼ト記シ其上下及両側ニ理化學ノ三字及ヒ應用ノ二字ト身跡ノ色ヲまろくするト記セリ而シテ其質硬ク之レヲ薄片トナスモ其質度ヲ保ツ

九 肉紅色ニシテ光澤アリ桂皮臭ヲ有ス而シテ橢圓形ニシテ稜アリ其表面ニ縦ニ「肉桂玉」ト記ス其質僅ニ硬ク而シテ之レヲ薄片トナスモ其質度ハ失セズ

十 肉紅色ニシテ光澤ヲ帶ヒ一種ノ芳香ヲ有シ長方形ニシテ両面共ニ其邊緣ニ於テ溝ヲ有ス而シテ穹窿狀ヲナス表面ノ中央ニ瓢形ヲ印シ其内ニ「君の香」ト記ス其周圍ニ櫻花ヲ散ス裏面ニハ數十字ヲ記シアルモ不明ナルタメ茲ニ記載セス而シテ其質僅カニ硬ク薄片トナスモ其質度ハ失セズ

十一 臘白色ニシテ光澤アリ一種ノ芳香アリ橢圓形ニシテ稜アリ表面ノ中央ニ都玉ト其兩側ニ「麝香入」ノ三字ヲ記ス其質僅カニ硬ク之レヲ薄片トナスモ其質度ヲ保ツ

十二 淡紅色ニシテ光澤ヲ帶ビ一種ノ芳香アリ橢圓形ニシテ稜ヲ有ス其表面ノ中央ニ「參宮石鹼」ト記ス其質僅カニ硬ク之レヲ薄片トナスモ其質度ハ失セズ

十三 汚白灰白ニシテ光澤ヲ帶ビ一種ノ芳香ヲ有シ長方形ニシテ両面ニ溝ヲ有ス其表面ニハ桐菊ノ紋ヲ浮出シ其上下ニ有巧賞參等品ノ六字ヲ記ス而シテ裏面ノ中央ニハ「N.N.128」ヲ記シ其兩側ニ「GLYCEBINE-B-ESPTSPA」ヲ記ス其質稍々硬ク之レヲ薄片トナスモ其質度ヲ保ツ

又右十三種ノ試験成績ハ左表ノ如シ

番號	水分	脂肪酸亞爾加里	炭酸亞爾加里	遊離亞爾加里	格魯兒那篤儂儂	堀里設林	合計
一	一六二六〇	六九四七九二	〇一三三九四〇	〇	一〇〇三〇〇	三二二一四	九九、二四五四四〇
二	九六〇〇	八三六五八八	〇一四九九三七〇	全	三、五〇〇〇	二六〇〇〇	九九、五〇八七三七〇

●原著及實驗

三	一四、九〇〇	七七、六六五四	〇〇、八四九七〇〇	全	六、〇四〇〇	一、三〇〇〇	九九、九九〇三七〇〇
四	一六、七〇〇	七〇、七〇五四	〇〇、九九九五八〇	全	八、二二〇〇	四、一〇〇〇	九九、八三三五五八〇
五	一五、九二〇	七六、一四七一	〇〇、一八九九二〇〇	全	四、六三〇〇	一、四〇〇〇	九九、八二八七二〇〇
六	一八、九二〇	六六、三二一一	〇〇、二三九四四〇〇	全	二、一四〇〇	二、一〇〇〇	九九、六二一〇四〇〇
七	一九、九二〇	七一、九六八〇	〇〇、一〇九九五四〇	全	六、一五〇〇	一、六七〇〇	九九、七七九七五四〇
八	一六、五三〇	六九、八一七九	〇〇、一七一六一八	全	一〇、三三四五	二、六〇〇〇	九九、三七九五一六三
九	四四、五〇〇	三四、二六九三	〇〇、二六六七五三三	全	一五、〇四三〇	三、六〇〇〇	九九、七六七九〇五三三
十	四一、八三〇	三九、五三〇八	〇〇、一四三四三六三	全	一五、〇四三〇	二、一〇〇〇	九九、八六六七三三六三
十一	二一、二三三三	六五、三三八九	〇〇、一五三八九六一	全	九、二六一〇	三、三二〇〇	九九、四三三七九六一
十二	四三、三三〇〇	三九、七六〇三	〇〇、三〇七七九二二	全	二、三三四〇〇	一、九〇〇〇	九九、七、六〇、八〇、九三三
	二八、九三〇	六一、四八八〇	〇〇、一五三八九六一	全	六、一四三〇	二、四六〇〇	九九、一七四八九六一

抑モ石鹼ノ眞價ハ其脂肪酸亞爾加里ノ含量ニ關係スルモノニシテ其含量愈々多クレハ其品位益善良ナルカ如シ其ニ反シテ水分ノ如キハ全ク前者ト正反對ノ位置ニアルモノトス然レモ全ク無水ハ暫ク置キ通常良石鹼ト稱スルモノニテモ其百分中八乃至九分ノ水分ヲ含有セリ故ニ其十%内外ノモノハ已ニ良品ト云フヲ得ヘキモノトス其他炭酸亞爾加里、遊離亞爾加里、堀里設林、食鹽ノ如キモノモ亦水分ト同シク全ク含有セサルカ少クモ其量ノ多カラザランナ長トス殊ニ遊離亞爾加里ノ如キハ其量多クレハ皮膚ヲ害スルノ慮アレハナリ然レモ以上ノ四品トモ皆本品製造ノ際ニ來ルモノニシテ彼ノ透明石鹼ト稱スルモノ、外ハ多少其含有ハ免カル可ラサルモノナリ前ニ記スル如ク余等ノ檢品ハ事情ノ爲ニ制セラレ僅カニ十三種ナルカ故ニ是ヲ以テ今日世上全般ノ石鹼ヲ評スルコト能ハサルハ勿論ナレモ今右十三種ノ試驗ノ結果ニ付テ意ヲ述ヘンニ第二號ハ良品ニシテ之レニ次クモノハ三號ナラン其他ハ皆良品ト認メ難キモノナリ、何トナレハ其水分ノ量多ク又一、六、八、九、十、十二、號ノ如キハ食鹽ノ最モ夥多ニシテ一紙已ニ其量ノ多カラントナ推察セシメタレハナリ是レ恐ラクハ其製造ノ際鹽出操作

ノ結果ヨリ來リシモノナランカ又々就中九、十、十二號ノ如キハ其水分ノ量極メテ多ク殆ント其全量ノ半ニ達セ
 ントス知ルベシ需用者ハ其價格ノ幾分ヲ以テ水分ヲ購買セシフテ尤モ十二號ノ如キハ一個ノ價モ極メテ廉ナレ
 ハ水ノ多キモ又至當ノ如クナレモ其點ヨリ推スルハ十一、十二號ノ如キハ比較的少ナキガ如シ要スルニ第二號
 及ヒ第三號ノ外ハ多少ノ非難ハ免カレサルガ如シ今試ミニ一錢ニ對スル脂肪酸亞爾加里ノ量ヲ算出セシニ左表
 ノ如キ結果ヲ得タリ

番號	不驗一個ニ含有スル脂肪酸亞爾加里ノ量(グラム)	石 驗 一 個 ノ 價 格	一錢ニ付テ脂肪酸亞爾加里ノ量(グラム)
一	六〇、四四八二	十	四、〇二九九
二	七〇、三九八八	十	五、八六六六
三	六五、五四四一	十	五、四六二〇
四	五九、一六七六	十	五、九一六八
五	五五、二二一一	八	六、九〇二六
六	四七、三六九一	十	四、七三六九
七	五九、〇三三三	十	四、九一九六
八	五四、九三九七	十	五、四九四〇
九	三一、三四八五	十	三、一三四九
十	三三、四三九八	九	三、七一五五
十一	四四、八三二五	四	一一、二〇八一
十二	二六、〇七八七	五	五、二一五七
十三	四五、八四二三	四	一一、四六〇五

即チ其結果ニ依レハ大略一錢ヲ以テ三乃至六「グラム」ノ脂肪酸亞爾加里ヲ得ラ、ルガ如シ然ルニ十一、十三號

●原著及實驗

ノ如キハ其量突飛ニシテ一「グラム」ニ當レリ是レニ由テ之レヲ見レハ其價格ノ甚ダシク廉ナルモノハ需用者ニ對シテハ尤モ利益アルガ如クナレトモ之レ各位ノ日々實驗セラル、如ク假令比較的脂肪酸亞爾加里ノ量多キモ含有スル水分ノ爲メニ使用ノ際實際ニ用ユルノ外無益ニ潮解スルモノ多キカ故ニ決シテ其効ナキモノトス然レモ余等思フニ遊離及ヒ炭酸亞爾加里等ノ如キモノヲ夾雜セサル石鹼ニシテ只水分ノミ多キモノナレハ之レヲ乾燥セシメテ使用用シタランニハ尤モ經濟ナランカ尙ホ茲ニ注意スヘキハ石鹼中含有スル脂肪酸ノ種類ニヨリテ之レヲ使用スルノ際大ニ其利害ニ關スルヲアリ即チ油酸ノ多キモノハ潮解シ易キカ如シ尙ホ石鹼ニ關スルヲハ余等今後モ益々研究ヲ遂ケ其得ル處ハ必スヤ其成績ヲ本誌ニ掲ケ以テ各位ノ教ヲ乞ハントス此試驗ヲ施行スルニハ櫻井教授ニ懇篤ナル教ヲ受ケタリ由テ全氏ニ其勞ヲ謝ス

◎歇私的里ノ一例

高橋剛吉

明治廿九年四月廿八日金澤市某町中橋某其女年紀十二ノモチノ負フテ金澤病院ニ來リ診テ乞フ

問診 本年三月廿日感冒、食機不進、時々腹痛、黃色視等ヲ訴ヘ四月上旬兩下肢諸關節ニ疼痛ヲ覺ヘ爾來堅立歩行不能トナレリ云々

望診 患者ハ稍貧血ノ狀ヲ呈シ顔貌少シク憂懼ノ色ヲ帶ブ

胸腹部ニ望、觸、打、聽診上更ニ異狀ヲ認メズ脊柱ニ壓痛ナク下肢關節ニ腫起、疼痛、運動障害等ナシ

試ニ患者ヲ抱テ堅立ノ位地ヲ取ラシメントスルニ兩下肢ハ恰モ小兒脊髓痲痺ニ於ケルカ如ク弛緩シテ下垂シ手ヲ放テハ直チニ仆レントス仍テ脊髓疾患ヲ疑ヒ患者ヲ床上ニ仰臥セシメ先ツ諸種ノ下肢運動ヲ命セシニ命ニ應シテ完全ナル各運動ヲ行ヒ筋力、筋知覺、腱反射、皮膚知覺及反射ヲ檢セシニ皆完全ナリキ爰ニ於テ歇私的里性堅立歩行不能ト診斷シ患者ヲ慰諭スルニ電氣療法ヲ施サバ必ズ即治スベキヲ以テシ弱感傳電流ヲ五分間兩下肢ニ施セシニ患者ハ忽地堅立シ其母ニ掖レテ數十歩ヲ運ヒ得ルニ至レリ爾後毎日上記ノ所謂電氣療法(實ハ Induction)ヲ施スル數日ニシテ全治セリ内服ニハ稀鹽酸里母那垓ヲ投セシノミ